

あること、それにつけて柱、梁等の腐食の傷みが予想外であることが第一期工事の解体で分かったこと、更に骨組みだけの修復という当初の計画を、十分とはいえないまでも、予算上できうる限りの工事として内陣周りを追加変更したこと等が重なることではしたが、どうか皆さまにもご理解頂きたいと思えます。門信徒の皆さま、温かいご協力本場に有難うございました。まだ、文化財登録、落慶法要等話し合わなければならぬ事項も残っていますが今後ともよろしく願ひ申し上げます。 合掌

西教寺本坊本堂修復情報

# めでたく竣工

未曾有の不況に加え芸予地震。本坊本堂修復計画は難行を窮めました。委員会では、逼塞しゆく将来の呉を展望し、三カ所の西教寺の今後について長期計画を立てました。そして、できるだけご門徒の負担を軽くすべく、今回の修復は「屋根と骨組みだけを修復」し、後はお金を貯めて徐々に修復することになりました。そしてその際に、長期計画に基づき、本坊については、古さや歴史を生かした修復、特に将来的に文化財とする選択肢を残しておこう、という方針で工事（設計管理Ⅱ 洛設計室・施工Ⅱ 三栄建設）が始まりました。

寺報九四号でお知らせ

せしたように、解体調査の結果、屋根は創建当時は寄せ棟造りでしたが、一九〇五(明治三十八)年の芸予地震の二年後、一九〇七(明治四〇)年に入母屋造りに変更されていたことが

判明しました。どちらの形に戻すかで委員会は紛糾しましたが、最終的に入母屋に戻すことに決定し、他の部分も明治期の本堂を



外屋は、床色を分けることで建立当時の部分と拡張された部分が分かるようにされた。



拡張されていた外陣と縁は、もとの形に戻された。写真右が修復前、写真左が修復後。本堂外陣が半間拡張してあった分、屋根も付け足され、階段の位置も変更されていた。

復元する方針で修復されました。それに伴い、墓地側に半間程に拡張された外陣と縁は元の形に戻されました。また同じく、創建後に拡張されていた後堂側の下屋は、便宜上元に戻さず、床色を分けることで建立当時の部分と拡張された部分が分かるように工夫されました。今回、ありがたいことに、事前調査時の予定額を上回るご懇志を皆さんより賜りました。その使途については寺報九六号で詳しくお知らせしましたように、当初は、約十五年後の三津田支坊再建のための貯金も検討していましたが、多くの門信徒の方から、内陣(六頁へ続く)